

<様式 1 >

令和 2 年度 さいたまま市立辻南小学校 自己評価書

校長                     中 野 緑                     印

**1 学校で設定した「令和 2 年度の目標」及び関係する「評価項目」について**

- (1) 教職員が互いに切磋琢磨し、教育の専門職として互いの指導力の向上を図ることを通して、学力向上を図る。特に、対話を重視し、思考力の育成に努める。
- (2) 子ども一人ひとりを大切にし、そのよさや可能性を伸ばす「希望をはぐくむ教育」を推進する。
- (3) 保護者及び地域の願いに謙虚に耳を傾け、風通しよく、様々な教育活動について情報発信しながら、協力して開かれた学校づくりに取り組む。
- (4) 安全で美しい学校を目指し、凡事徹底していく。教育活動を円滑に行うために、施設・設備の管理を確実にを行う。
- (5) 報告・連絡・相談・確認を徹底して、健康的で機動力のある組織を構築する。

**2 評価結果について**

- (1) 「授業では工夫した教え方をしている」について肯定的に回答した児童は 8 4 %、保護者は 9 7 %であった。児童の「授業はわかりやすい」は 9 6 %であった。
- (2) 「教職員がよさを見つけ伸ばそうとしている」について児童は肯定的な回答が 9 2 %、保護者は 9 1 %だった。また教育課題や計画性、行事に関してもどれも 9 5 %以上の肯定的な回答を得た。
- (3) 「教職員は保護者からの相談や要望に誠実に対応している」「保護者や地域の願いに応えようとしている」「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている（ホームページ・安心メール・各種便り）」で 9 0 %以上の保護者が肯定的に回答した。開かれた学校づくりが進められていると考える。
- (4) 「先生たちが校内に危ないところが無いよう気を付けていて安心」「花や緑が豊か」「物が整理されていてきれい」で、肯定的に回答した児童は 8 3 %以上であり、保護者は 9 5 %以上であった。
- (5) 「学校では子どもの悩みやトラブル等について、適切に対応している」「悩みや困ったことを相談できる先生や友達がいる」で、肯定的に回答した児童は 9 0 %以上であり、保護者は 9 3 %以上であった。

**3 次年度に向けた具体的な改善策について**

- ・ 学校課題研究の「主体的・対話的で深い学び」の 3 年目を終え、一定の成果を得た。今後さらなる研修の充実を図ることや、G I G A スクールの導入による I C T 教育の推進など授業改善を進めることで授業力の向上を推進したい。
- ・ 「ありがとう」や「おはよう」等の挨拶の評価に改善の余地が見られるので、コミュニティスクールを通して、保護者や地域と連携して挨拶ができる子を育成していきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の対応のなか、行事等に制限があったにもかかわらず、地域や保護者からは高評価をいただいた。引き続き保護者や地域と連携して開かれた学校づくりを推進していきたい。